

## さよた当番

平成五年度 二年 男児

ぼくの家には、「さよた当番」というのがあります。さは、さち子おねえちゃんの「さ」。よは、曜子おねえちゃんの「よ」。たは、ぼくの名前の一ばん上の「た」です。これは、三人できめたお手つだいのじゅんばんです。

夕食の後、お母さんが、

「だれでもいいから手つだって。」という、おねえちゃんたちは、テレビにお中でうごきません。ぼくにむかって、「おめ、いげ。敬有のぼんだ。」と言ったりするので。その前の日もぼくが、やっていることが多いので、すぐけんかになります。ぼくは、

「あどでせばいいじ。」と言いかえしてやります。それでも、おねえちゃんは、ぼくの言うことなんかききません。

ぼくは、心の中で「やだちゃ。」と思いつながら、

「じゃ、ぼく手つだう。」と言うことになるのです。いつもけんかになってしまうので曜子おねえちゃんが、当ばんをきめようとみんなに言ったのははじまりです。

月と木は、さち子おねえちゃん。火と金は曜子おねえちゃん。水と土は、ぼくときめました。でも日曜日だけきめています。ぼくが

「日曜日だけ、しねごどしよう。」と言ったら、おねえちゃんたちが

「そしたら、お母さんつかれでたおれっがもしんねぞ。」と、おどかすのです。ぼくは心の中で「うそだ。」と思いつながらも、ちょっとこわくなって、みんなですることにきんせいしました。

この前の水曜日もおねえちゃんが回ってきました。

「きょうのさよたはだれだ。」と声が聞こえると、おねえちゃんがぼくのせなかをおしました。いそいでだいどころに入ると、

「きょうは、ちゃわんふくの少ねぞ。」とお母さんがあらいものをしてながら教えてくれました。おさらをふく時、キエツキエツと音がしたらきれいになった合図です。

「さよた」をきめたらけんかもしなくなりました。ぼくの家には、べんりでもいいものがあると思います。